

長野県立歴史館たより

2026年 夏号 vol.127

特集



守り継がれた信仰と由緒

戸隠の至宝

パワースポット、そば処として知られる戸隠には、国内外から多くの観光客が訪れています。令和9年(2027年)は、戸隠神社最大の祭典・式年大祭(6年に1度)と、柱松神事(3年に1度)が同年に斎行されます。

メモリアルイヤー前年となる今年、戸隠神社と宿坊が守り継いできた宝物と、戸隠から離山した仏像等を一堂に集め、信州を代表する山岳信仰の世界を紹介する企画展を開催いたします。

戸隠の至宝 ~守り継がれた信仰と由緒~

戸隠山神領 一守護不入の地—

戸隠神社は、明治時代以前は戸隠山^{けんこうじ}顕光寺という寺院でした。

江戸時代の戸隠山顕光寺は、慶長17年（1612年）に徳川家康より神領1000石が保護され、社領・門前・境内・山林竹木一切は守護不入とし、戸隠山法度により山内の統制が行われていました。

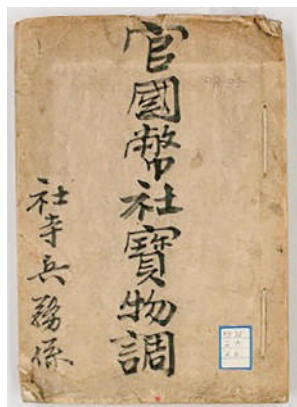
また顕光寺は、東叡山寛永寺^{とうえいざんかんえいじ}（東京都上野）の直末寺院として位置づけられ、善光寺大勧進と並び、江戸時代を通じて信濃国を代表する天台系寺院として発展しました。

江戸時代後期の浮世絵師、二代歌川広重の代表作「諸国名所百景」の一つ「信州戸隠山九頭龍大権現」からは、参拝者や商人らが行き交う門前町として栄えた様子が伝わります。

慶応4年（1868年）3月、神仏判然令（神仏分離）にともない、奥社・中社・宝光社の各社殿に置かれていた仏像・仏具類は整理されることとなりました。

従来、戸隠においても徹底して廃仏毀釈が行われたとする見方がありました。しかし近年の調査により、顕光寺由来の仏像・仏具類が山内外で大切に守り継がれている事例が多いことから、そのような破壊の実態はなかったとする見方が有力です。

この明治初年の仏像・仏具類の整理状況については、江戸時代の宝物帳（戸隠神社蔵）と、明治時代の宝物帳（当館蔵 特定歴史公文書）の比較から読み取ることができます。



官国幣社宝物調（当館蔵）

寺宝の行方

神仏分離によって整理された顕光寺由来の宝物は、本末寺関係にあった寺院だけに留まらず、善光寺をはじめ県下各地の寺院の手に渡りました。そのうち奥院本地仏の木像聖観音は、千曲市長泉寺に移安されました。

また、山内の各宿坊の神内の仏像・仏具類も整理されました。一部は売却され、また一部は土蔵や屋根裏に移し置かれ今日に至っています。その後火災の折に、火中に飛び込み救い出された仏像もあるといひます。



木像聖観音坐像（長泉寺蔵）

現存するこれら宝物からは、信仰を絶やすまいとした旧宗徒中の強い信仰心と労苦を偲ぶことができます。寺院から神社への転換は、そうした労苦の末に行われたのです。

近年、戸隠神社が中心となり、離山した三院の本地仏や各坊の仏像を一堂に会す取り組みが、式年大祭中に行われています（里帰り拝観）。柱松神事もまた、神仏習合の頃の歴史と向き合おうとする努力によって復活が成し遂げられています。

戸隠の至宝

当企画展では、様々な苦難を乗り越えて伝存する、至宝ともいえる貴重な宝物を展示します。一つ一つの宝物から、守り継いできた人々のメッセージも読み取っていただきたいと思います。

改めて、宝物とは何でしょうか。何を未来に伝え遺していく必要があるのでしょうか。当企画展を機に、各地に伝存する文化財の今後についても、ともに考えていただくと幸いです。（中山 敦）

令和8年度 常設展示のご紹介

《原始》 ～ナウマンゾウの足跡と石片～

で見つかったナウマンゾウの足跡の一つから出土したものです。足跡から出土したことから、この石片が人によって割られたものならば、ナウマンゾウが生息していた時期に人類も生活していた証拠となります。足跡の年代は約4万年前、つまり約4万年前に現在の長野県の地域に人類が生活していた可能性があるのです。しかし、残念ながらこの石片には、複数の剥離痕があるものの、打点が明確にとらえられないなどの点から石器である確証が得られておらず、研究者の中でも「石器と断定することは難しい」とする意見があります。それでも、石片なのか、石器なのか、約4万年以上前の長野県に人類はいたのか、この石片が語るロマンにみなさんも魅了されませんか。（初見俊輔）

この石片は、野尻湖西側に位置する仲町遺跡（信濃町）



ナウマンゾウの足跡から出土した石片
(野尻湖ナウマンゾウ博物館蔵)

《古代・中世》 ～合戦図屏風～



源平合戦図屏風・右隻（部分）（当館蔵）

当館には木曾義仲に関係する屏風が3点収蔵されており、そのうち「源平合戦図屏風」と「木曾義仲合戦図屏風」を4月より3か月毎展示します。両屏風とも『平家物語』をもとにしていますが、描かれる場面は様々です。「源平合戦図屏風」の右隻は、宇治川の合戦から始まり、義経の配下である佐々木高綱と梶原景季の先陣争いの場面があり、以下、六条河原の戦い、義仲の敗北、屋島の戦いが描かれていますが、義経の奇襲戦法の代表とも言うべき一ノ谷の合戦が描かれていないのも特徴です。八曲一双で大変見応えがあるのでぜひご覧ください。（黒川 稔）

《近世》 ～北国街道の宿と旅人～



矢代宿宿割図（部分）（当館蔵）

江戸と地方とを結ぶ交通網は、五街道や脇往還など、江戸幕府成立直後から整備されていきました。信濃には五街道のうち中山道と甲州街道が通り、脇往還として北国街道・北国西街道・佐久甲州街道などがあります。江戸時代後期になると神社参詣や物見遊山の旅行ブームが始まり、道中記や浮世絵風景版画が出版されました。善光寺に通じる道は「善光寺道」・「善光寺街道」などと呼ばれ、多くの人が往来したそうです。当時の様子を窺える史料として「矢代宿宿割図」を展示します。今の屋代駅や長野県立歴史館のあたりの江戸時代の様子がよく分かる絵図です。ぜひ「今」と比較しながらご覧ください。（中山 敦）

《近現代》 ～高度経済成長を象徴する家電～

家庭で使われる家庭用電気製品（略称「家電」）は、戦後の復興期から高度経済成長期を迎えると全国的に普及しました。電気冷蔵庫「日立製作所製 モデルNo.M-95」は戦後の家電普及期の典型的な製品で、1958年（昭和33年）9月に製造されました。庫内上部には製氷機が備えられ、氷屋から購入していた氷も、家庭で作ることができるようになりました。現在の家庭用冷蔵庫より小さく、丸みをおびたフォルムで、見た目以上に縦長です。今も使われている「しろくま」のマークやHITACHIのロゴもあります。新しい電気冷蔵庫の登場により、食材の長期保存が可能になり、調理の効率化、多様化も進みました。家電製品の進化と普及は、家庭内の仕事や時間の過ごし方を変え、人々の生活を大きく変化させたのです。（鈴木幸香）

家庭で使われる家庭用電気製品（略称「家電」）は、戦後の復興



電気冷蔵庫
(当館蔵)



INFORMATION

インフォメーション



■ 2026年(令和8年) 6月～9月の行事予定

6月

休館日
1・8
15・22
29

令和8年所蔵品展

長野県民の 戦後再出発

～6月14日(日)まで開催

■ギャラリートーク

6月13日(土) 13:30～

講座・イベント

古文書講座

初級 A 第1回 6月7日(日)
B 第1回 6月11日(木)
中級 A 第1回 6月6日(土)
B 第1回 6月11日(木)
上級 第2回 6月20日(土)

古文書出前講座 IN 諏訪市博物館
第1回 6月21日(日)

考古学セミナー

6月13日(土) 13:30～15:00

県立歴史館講座②

6月27日(土) 13:30～15:00

7月

休館日
6・13
21・27

夏季企画展

戸隠の至宝

～守り継がれた信仰と由緒～

7月11日(土)～8月23日(日)

■企画展講演会 各13:30～15:00

①7月25日(土) 聴講料500円

演題「戸隠の景観 文化的景観は
こうしてできあがった」

講師 小林昭裕氏

(専修大学教授)

②8月1日(土) 聴講料500円

演題「戸隠神社と首都江戸」

講師 大石 学氏

(静岡市歴史博物館館長・東京学芸大学名誉教授)

■ギャラリートーク

①7月11日(土) 14:00～14:30

②7月18日(土) 15:10～15:40

③8月8日(土) 15:10～15:40

④8月16日(日) 14:00～14:30

■イベント

8月8日(土)

拓本体験・手裏剣体験

古文書講座

初級 A 第2回 7月5日(日)
B 第2回 7月9日(木)
中級 A 第2回 7月4日(土)
B 第2回 7月9日(木)
上級 第3回 7月18日(土)

古文書出前講座 IN 諏訪市博物館
第2回 7月26日(日)

県立歴史館講座③

7月18日(土) 13:30～15:00

「戸隠山神領の宝物」

中山 敦(当館総合情報課)

ティーンズ考古学講座

1回目 7月30日(木) 2回目 7月31日(金)

古文書講座

ティーンズ 第1回 8月7日(金)
第2回 8月8日(土)
初級 A 第3回 8月2日(日)
B 第3回 8月6日(木)
中級 A 第3回 8月1日(土)
B 第3回 8月6日(木)
上級 第4回 8月22日(土)

古文書出前講座 IN 諏訪市博物館
第3回 8月23日(日)

歴史館で夏休み

8月8日(土)

県立歴史館出前講座①

8月29日(土)

8月

休館日
3・10
12・17
24・31

9月

休館日
7～17
24・28

9月7日(月)～17日(木)は
全館燻蒸のため休館となります。



古文書講座

初級 A 第4回 9月6日(日)
B 第4回 9月3日(木)
中級 A 第4回 9月5日(土)
B 第4回 9月3日(木)
上級 第5回 9月19日(土)

古文書出前講座 IN 諏訪市博物館
第4回 9月27日(日)

県立歴史館講座④

9月5日(土) 13:30～15:00

県立歴史館出前講座②

9月26日(土)

表紙写真の解説

戸隠山と鏡池(夏)

タイトルにあるマーク(鎌刃)は、戸隠山顕光寺由来の寺紋

行事アルバム

*** 令和8年所蔵品展 長野県民の戦後再出発 ***



令和8年所蔵品展が6月14日(日)で終了いたします。戦後の長野県民の姿にスポットをあてた今回の展示に、たくさんの方に関心をもっていただき、ご来館いただきました。会期中にはギャラリートークも開催し、展示しているSPレコードの実演なども行い、ご好評をいただきました。観覧された皆様から「長野県民が様々な努力をしながら、終戦後の過酷な時代を生き抜いた様子がよく分かった」「転用された戦闘機の部品、赤羽刀など、貴重な資料を見れ、見応えがあった」などの感想をいただきました。

***** 歴史館でこどもの日 *****



5月5日(火・祝)は、「歴史館でこどもの日」として、子ども向けイベントを開催しました。「甲冑を着て『はいチーズ!』」のブースでは、紙製の手作り甲冑や着物を着て撮影することができ、「本物の甲冑みたいでかっこいい」と、こどもの日ならではの企画を多くのご家族の皆様楽しんでいただくことができました。他にも「歴史発見隊★これなんだ」や「縄文人になろう」のブースも盛況でした。次回は「歴史館で夏休み」となります。お楽しみに!

お詫びと訂正

長野県立歴史館たより春号vol.126の「開館カレンダー」に掲載した内容に2点誤りがありました。

1. 9月1日(火)が休館日となっておりますが、正しくは開館日です。
2. 秋季企画展の開会期間(オレンジの網掛け)は、15日(日)までとなっておりますが、正しくは8日(日)までです。

長野県立歴史館たより 夏号 vol.127

2026年(令和8年)6月5日発行
編集・発行 長野県立歴史館

〒387-0007 千曲市大字屋代260-6
電話 026-274-2000(代) FAX 026-274-3996
E-mail: rekishikan@pref.nagano.lg.jp
ホームページ: <https://www.npmh.net/>

印刷 有限会社アツツロー